

登校拒否・不登校問題

第 25 回全国のつどい in 京都・宮津 実行委員会ニュース No.3



第 25 回登校拒否・不登校問題全国のつどい 実行委員会事務局発行 (2020. 4. 20)

【事務局連絡先】

林 敬子 〒607-8033 京都市山科区四ノ宮芝畑町 1-9 Tel/Fax 075-594-5841
坂本 則子 090-9869-0187 E-Mail 2020tudoigmail.com

第 3 回実行委員会を開催しました

4月5日、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、会場を京都教育文化センターに急ぎ変更し、それぞれリスクを感じながらも 34 名の参加がありました。この場に行きたいけど行けないという遠方の方々からのご連絡もあり、この「つどい」を大事に思う人たちがたくさんいることを改めて感じました。



【世話人代表あいさつ】

見るところ 30 人ほど、よくおいで下さいました。生きているから会える。

今、いろんなイベントを自粛しないといけない、精一杯騒げないという状況が作られている。私たちに何かを考えさせようとしているところがあるのではないかな。

10 年前にも異常気象があった。4 月に雪が降り、41 年ぶりの大きな寒暖の差、ヨーロッパの火山の噴火、大地震と。2011 年東日本大震災と続き、原発事故も忘れられない。地球が異変を起こしている。人類も地球や自然の一部分で、人類に起こっている異変とみる。

今、私たちはウイルスという毒を怖れて戦々恐々とし、戦いを挑んではいるが、終息の目処はついていない。正しく怖れるというのは何を正しく怖れるのか、専門家だけに委ねず、命としての自分のあり方が問われているとみて、考えていくチャンスとしたい。

全国連 25 周年の節目の年に、オリンピックも延期され、予定されていたことが出来なくなっている。その中で京都でのつどいをどうするかが問われている。ずるずる伸ばしたら禍根を残すかもしれないところにいる、それも含めて今日はしっかり話し合いたいと思う。

今日一日、お疲れにならないように。ざっくばらんに、肩に力を入れず本音で話し合しましょう。



登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表
高垣 忠一郎

【実行委員長あいさつ】

花園大学での実行委員会開催については、多くの方々にご心配をして頂いて、無理しなくてもいいと温かい言葉を頂きましたが、大学からは使用許可が出ていて、その後、取り消しの連絡も来てないし、感染症対策についても、このつどい実行委員会ほど丁寧なところはないとの自負はありましたので、自粛、自粛の大合唱に忖度すべきではないと考えていました。しかし、つい先日、近隣の京都産業大でクラスターが発生してしまい、もはやこれまでということで、大学にも今度ばかりは見合わせますとこちらから申し出て、会場変更のチラシを守衛さんに託して参りました。

今回のつどいについては、ただやめるというだけではなく、今後、どういうやり方で、何を達成すればいいのかを考えてみてはどうかと考えています。これまでのつどいは、みんなが全国から集まって講演を聞き、大交流会をし、コストも考えて相部屋で安く泊まることにしてきましたが、このままのやり方を宮津ですることは、もはやできません。全体会や分科会等は何とかできても、宿泊の形態についてはどうにも変更のしようがありません。今回の実行委員会では、根本から、これまでのやり方を考え直す必要があるのではないのでしょうか。

関東と関西では、この問題に対する切迫感が全然違うのも事実です。そういうなか、せっかくりスクを犯して来て下さったみなさん。得がたい顔を合せての議論の場となりますので、ぜひとも忌憚のないご意見をお願いします。

花園大学教授・名古屋大学名誉教授 植田健男



全国のつどいプレ企画

講演会「学校の息苦しさ」の現在 ー 私たちはどこに展望を見出すのかー

講師：植田健男氏

実行委員会の午前中に開催した講演会では、戦後教育の流れや仕組み(教育の目的が「人格の完成」から、その時々産業界が必要とする「人材」教育になってきたこと)などを詳しくわかりやすく話していただき、子どもたちが登校拒否に追い込まれる背景に納得させられました。今回、学習指導要領が改訂され、教育課程づくりが焦点になっている今、私たちは、「学校をあきらめない」で、子どもたちに学習権を、「公教育」を国民の手に取り戻す取り組みをしていくことの大切さを感じさせられるお話でした。

第3回実行委員会で話し合われたこと

○今年の全国のつどいの開催について

会場からも様々なご意見が出る中、この未知の新型コロナウイルスの終息の見通しが立たないこと、何よりも命を大事にすることが大切だという思いが一致し、

8月29・30日の全国のつどい開催は、やむなくとをやめる

4月5日にて実行委員会は終わりとする。事務局は存続となりました。



ことになりました。

その後、京都の事務局で話し合ったこと

ここまで積み上げてきた京都北部とのつながりや全国のみなさんとの連帯は私たちの財産です。この夏のつどい開催はできなくなりましたが、京都の事務局は「第25回全国のつどい in 京都・宮津」を「延期」として受けとめます。期日、内容、その他については、「新型コロナ」情勢を見て、全国連絡会と相談しながら取り組みます。

《参加者の感想》

コロナ騒ぎの中、実行委員会に参加しました。今年のとどいは延期となりました。さみしい思いがありますが、現状では仕方のない事と思います。

次回は元気な顔で集まれるように、皆様お体に気を付けて。再会を楽しみにしています。(和歌山・家族)

事務局の皆さん、本当にお疲れ様です。時間と心をかけて今日まで準備していただいたこと、できてきたつながりをぜひin 京都・宮津開催と成功につなぎたいと思います。

まだまだご苦労は続きますが、宜しくお願いします。

物事の本質をつきとめる努力、職場に自由と民主主義を築くこと、教育課程の編成権は現場にあること、などを現職のみなさんに伝えることの難しさに苦しんでいます。

丹後の宮津開催が中止になったことは残念。丹後の宮津生まれの自分としてあきらめるのも必要と「割り切る」。

丹後の宮津もよし、長野(教育県)もよし。(京都・退職教員)

こんな大変な時にみんなに会えたことに感謝します。開催はできなくなってしまいましたが、このコロナ騒動がいつの日か落ち着いたら、リベンジしてほしいと願ってます。

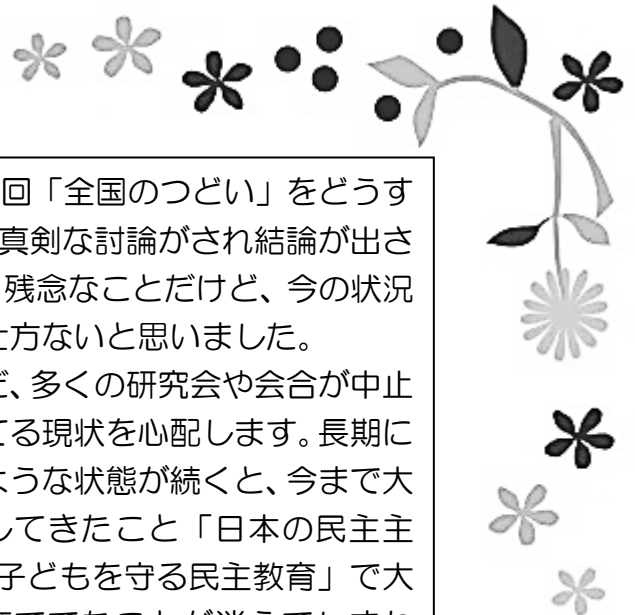
特に個人的には2年前(?)の京都のとどいのあとの打ち上げと2次会にまでお邪魔して(からふね屋コーヒーでのお茶会)、いろいろとお話を聞いていただけに、このままで終わりたくないという気持ちでいっぱいです。本当につらいです。

きっといつか形を変えてでも「とどい」が開催できる日を祈りつつ「ご安全に」を合言葉にお互い生きていましょう。

ci vediamo (チ ヴェディアーモ)！(イタリア語で「また会いましょう」という意味です。今はこの言葉がふさわしいと思い書かせて頂きました。(大阪・家族)

今年のとどいが中止になるのは、コロナのせいとはいえとても残念です。特に今まで取り組んでこられた京都の方々には断腸の思いだと思います。でも、明けない夜はない。困難はきっと乗り越えられる。いつか(できるだけ近いうちに)宮津でとどいをしたいです。必ずやりましょう。(大阪・家族)

《参加者の感想》



コロナウィルス感染で感染者が増加している中で、来るのを悩みましたが、植田先生の講演が聞きたかったので、JRと京阪を乗り継いで参加しました。先生のお話は、今まさに学校教育(教育課程、指導要領)が問われていて、私自身の日頃身近に子どものことや教師、学校づくりに対する疑問に答えてくださいました。ウンウンとうなづいてばかり。今後の展望についても「なるほど!」と胸のつかえがスッとおりました。来てよかったです。「学校をあきらめない…、学校をともに造っていく!」という言葉に勇気をいただきました。やっぱり学校はどの子にも楽しい頑張れるところでない… (滋賀・元教職員)

25回「全国のつどい」をどうするか、真剣な討論がされ結論が出された。残念なことだけど、今の状況から仕方ないと思いました。

ただ、多くの研究会や会合が中止されてる現状を心配します。長期にこのような状態が続くと、今まで大切にしてきたこと「日本の民主主義」「子どもを守る民主教育」で大切に育てたことが消えてしまわないか。

コロナの不安と付き合っ、日常が長く続く中で、我々は「どう生き抜くか」問われていると思います。「自由と権利」が失われないために、「いかに活動していくか」落ち着いて考えてみるべきではないでしょうか。(京都・研究者)

命が何より大切ですね。全国のつどいの意義を改めて考えていきたいと思っています。それぞれの地域の会の役割が一層大切だと思います(兵庫のつどい予定は10月25日です)。

今、全国の子どもたちが学校から登校拒否をされています。子ども、親、教育、関係者に思いを寄せたいと感じています。(兵庫・家族)

《一期一会を大切に》

新型コロナウイルスの猛威を前にして私たちは「いのちを守る選択」をすることになりました。京都北部・宮津・全国のみなさんにつながって心ひとつに取り組み始めた「つどい」です。桜満開の今日、突然の休止をお知らせすることになるうとは思ってもよらぬことでした。学校が休校になり、人と人のふれあいが制約されるようになって、私はますます「つどい」の必要性を感じています。

私たちが作ってきた「全国のつどい」はいつも一期一会。一生に一度相まみえるような、初めて出会っても通じ合える、集まることで何かが生まれる…、集まることさえままならない今だからこそ「つどい」の意味を考え続けたいと思います。

今はまだ先が見えないけれど、終息の日が早く来ますように。

全国のつどい in 京都・宮津 事務局長 坂本 則子

みなさま、ご協力ありがとうございました。
お元気で、またお会いできる日を楽しみにしています。

